

かごしま茶通信

公益社団法人 鹿児島県茶業会議所

鹿児島市南栄3丁目12

TEL(099)267-6063

FAX(099)267-6957

<http://www.ocha-kagoshima.jp>

発行責任者

会頭 柚木 弘文



鹿児島県茶業振興大会 in 薩摩川内を開催

令和3年度鹿児島県茶業振興大会「2021かごしまお茶まつり in 薩摩川内」を11月28日(日)に薩摩川内市国際交流センターで開催しました。新型コロナウイルス感染拡大が収まりつつありましたが、検温、消毒等感染防止対策を徹底しながらの開催となりました。

式典は、「認定こども園・びばあ」の元気いっばいの日本太鼓の演奏で開幕し、塩田鹿児島県知事を始め、野村参議院議員のほか地元選出国會議員

など多数の来賓の出席の中、茶業功労者、県茶品評会及び茶経営改善コンクールなどの各種表彰の後、大会スローガンを採択しました。

柚木茶業会議所会頭は、「鹿児島県茶業は、全国トップレベルで、多様な消費者ニーズに応える生産体制を整えている。一層の銘柄確立と消費拡大に取り組む。」とあいさつ。

最後に、一芯五葉会の山下会長が大会スローガンを朗読し、満場の拍手で採択され、幕を下ろしました。

～ 大会スローガン ～

1. **躍進する「かごしま茶」** 茶業界が一致団結し、品質・量ともに日本一の産地を確立しよう
2. **魅力ある「かごしま茶」** 消費者ニーズに対応し、安全・安心で多様な茶づくりに努めよう
3. **世界へ発信する「かごしま茶」** 「茶いっぺ」のおもてなしの心と「かごしま茶」の魅力の世界へ発信しよう
4. **未来へつなく「かごしま茶」** 技術革新で特色ある産地づくりと次世代を担う人材を育成しよう

年頭のごあいさつ



公益社団法人 鹿児島県茶業会議所

会頭 柚木弘文

新年あけましておめでとうございます。

茶業関係者の皆様には、希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆様方には、かねてから鹿児島県茶業会議所の業務・運営に対しまして、格別の御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年の県茶市場の取引状況を見ますと、取扱数量は、品質重視の摘採や長期間の梅雨による日照不足等の影響もあり、前年より一、二番茶は減少となりましたが、三、四番茶は増加し、全体として前年を上回りました。価格は、一昨年実施されたコロナ禍対応の需要対策やドリンク需要の引き合い等により前年を上回る実績となり、非常に厳しかった一昨年に比べ持ち直しが見られました。

一方、販売環境は、昨年も新型コロナウイルスの感染が収まらず、活動自粛や移動制限など国内外の経済活動が抑制され、茶業界におきましても、新茶時期に試飲・販売イベントが開催出来ないなど、厳しい状況が続きました。

このような中、鹿児島県の茶業は、広大な畑地と恵まれた気象条件のもとで、生産者をはじめ関係の皆様の意欲的な取組により、荒茶生産量は全国の3割以上を占め、2019年の農業産出額では静岡を抜いて日本一になるまで躍進してまいりました。品質面におきましても、全国茶品評会の普通煎茶10キロの部において、18年連続産地賞を獲得するなど、品質・量ともに全国トップレベルにあります。さらに本県は、多くの品種や全国一の有機栽培面積を有するなど、多様な消費者ニーズに

対応できる生産体制を整えてきております。

今後、消費者の期待に応える一大産地として、鹿児島茶業の果たす役割は一層増大してまいります。そのためには、健全な茶業経営を維持しながら、生産性と品質の向上を図り、安定的な生産・供給に努めて行く必要があります。

お茶は、日本人の食生活には欠かせない身近な飲み物として、暮らしの中に深く根づき、おもてなしの心を育む文化としても発展してきました。

コロナ禍の中、ライフスタイルが変化し多様化しています。これに合わせた商品開発やお茶の飲み方・楽しみ方の提案など、お茶の持つ機能性の発信と併せ、新たな視点で消費者にアプローチする取組も大事です。

茶業会議所では、コロナ後の社会様式等の変化も注視しながら、「かごしま茶」の魅力や特長を前面に出したPRを行い、「かごしま茶」の知名度向上と消費拡大に取り組んでまいりますので、皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

最後に、今年のお茶が気象災害を受けることなく順調に生産され、活発な取引がなされるとともに、茶業に携わる皆様のますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。





年頭のごあいさつ

鹿児島県農政部

部長 松 蘭 英 昭

令和4年の年頭に当たり、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

皆様には、日頃から茶業振興を通じ、本県農業の発展に多大な御貢献をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、令和3年産の取引状況を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が依然としてある中、ここ数年続いていた相場の下落に歯止めがかかり、数量・単価ともに前年を上回る結果となりました。

令和3年の本県茶栽培面積については、全国では38,000haと前年から1,100ha減少する中で、ほぼ前年度並みの面積である8,300haを維持しており、荒茶生産量の全国シェアは年々拡大傾向にあります。

さらに、昨年の全国茶品評会においても、「普通煎茶10kg」の部での18年連続となる産地賞受賞や、個人部門でも農林水産大臣賞をはじめとして輝かしい成績を収め、「かごしま茶」の品質が全国トップレベルであることを改めてアピールすることができ、大変明るいニュースとなりました。

これもひとえに、日頃から高品質な「かごしま茶」を生産されている生産者をはじめ、関係の皆様方のためまぬ御努力の賜物と考えております。

県といたしましては、『「かごしま茶」未来創造プラン』に基づき、本県茶業が有する強みや潜在力（ポテンシャル）を生かし、「儲かる茶業経営の実現」に向けて、「さえみどり」など茶商から評価の高い品種への転換や抹茶や紅茶・ドリンク原料な

ど多様なニーズに応じた茶づくり、国際水準GAPや有機JAS等第三者認証取得、スマート農業実践化による省力化、輸出促進へ向けた生産・販路開拓支援など各般の施策を関係機関・団体一体となって積極的に推進し、「かごしま茶」が名実ともに日本一の茶産地となるよう、さらなる茶業振興に取り組むこととしています。

特に、ポストコロナを見据えた令和4年産「かごしま茶」の国内外における認知度向上と販路拡大を図るため、県内茶商と「かごしま茶販売協力店」等が行う「かごしま茶」の販売・営業活動や県内外でのPR実施及びイベント開催の支援、色・味などの品質評価が高く将来の海外展開が期待される新品種「せいめい」の産地化の推進等、茶商や生産者が取り組む生産・販売の支援等を行うこととしておりますので、皆様の御理解・御協力をお願いいたします。

本年が「かごしま茶」にとりまして、大きな飛躍の年になりますよう、また、皆様方の御健勝、御多幸を心から御祈念申し上げます、新年の挨拶いたします。





年頭のごあいさつ

一般社団法人 鹿児島県茶生産協会

会長 坂元 修一郎

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

さて、令和3年産茶は、4月中旬以降の気温が低かったことから生育が抑制されましたが、大きな気象災害もなく順調な生産となりました。

また、価格は、一昨年のコロナ禍での生産自粛等による減産から茶商の在庫が少なくなり、ここ数年続いていた相場の下落に歯止めがかかり、全茶期で前年を上回りました。しかし、冠婚葬祭やインバウンドを含む観光向け、外食などの需要が落ち込んだままで、コロナによる影響は残っており厳しい状況に変わりはありません。

そのような中で、本県の2019年茶産出額が静岡県を抜き、初めて日本一になりました。今後、数年のうちに、荒茶生産量日本一も現実味を帯びてまいりました。

さらに、本県の2020年度の茶輸出額が、米国向けの抹茶やEU向けの有機栽培茶を中心に家庭内需要への対応などで伸び、11年度以降で過去最高額となりました。

また、全国茶品評会では、普通煎茶10kgの部において、本県が18年連続で産地賞を受賞するとともに、個人の部においても農林水産大臣賞をはじめとする特別賞を受賞するなど、本県産茶の品質がトップレベルにあることをアピールすることができました。

一方、緑茶を取り巻く情勢は、若者のリーフ茶離れや消費者の簡便志向等により、消費量は減少

傾向が続いており、引き続き国内外での消費拡大を図ることが重要となっています。

生産面におきましては、大型機械の導入による省力化、経営規模の拡大や法人化など、足腰の強い経営体が育成されていますので、今後も本県ならではの特色を最大限に生かしながら、安全・安心な茶づくりを基本にして、良質茶の生産や更なるコストの低減、生産性の向上などに、関係機関・団体と一体となって、積極的に取り組んでまいります。

また、販売面におきましては、多くの本協会会員の皆様方が、輸出に対応した有機栽培茶やてん茶などの生産に取り組んでおられますが、更なるお茶の消費拡大と付加価値向上を図るため、輸出支援はもとより、健康面からのお茶の機能性について、関係機関や大学と連携した機能性分析・評価に向けた取組を今年度も継続して行い、抗酸化作用があるカテキンやリラックス効果があると言われるテアニンなど、お茶に含まれる機能性を前面に出したPR活動や情報発信等に取り組んでまいります。

さらに、茶業会議所と連携し、「かごしま茶」の認知度向上と消費拡大を図るため、引き続き県内外でのイベント等の実施や、あらゆる広報媒体を活用したPR活動を行ってまいりますので、皆様方の御支援・御協力をお願いいたします。

結びに、本年が茶の生育に恵まれ、販売においてもよい年となりますよう、また、皆様にとりまして実り多い年となりますよう、お祈り申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。



新年のごあいさつ

鹿児島県茶商業協同組合

理事長 澤田 了三

明けましておめでとうございます。

茶業関係の皆様方には、新年を迎えいかがお過ごしでしょうか。

一昨年来、誰も経験したことのない「新型コロナウイルス」が世界中に蔓延し、未だ終息の見通しが立たない状況にあります。最近では患者数が減少傾向にありますが、今度は新しい変異型「オミクロン型」の感染拡大が懸念されています。このような状況下、国内外からの観光客の激減や各種イベントの中止・入場者の制限等が、経済面にも多大な影響を与えているようです。

県内茶業界においても「新型コロナウイルス」の拡大で、移動の制限や販売会の延期・中止等で取引量や価格面にも影響が出て、新しい販売戦略を模索しているのが現状です。

このような状況でも、予防対策を徹底し10月の九州茶商交換会と11月の統一販売会（静岡・京都・福岡で開催）を実施し、今年1月には新春九州茶商交換会の開催も予定しています。また、一昨年の国の「新型コロナウイルス」対策支援で茶商の在庫が減少し、昨年は年間を通して取引量が増加し売買単価の上昇も見られました。

さらに、昨年は農林水産省から鹿児島県の茶産出額（生葉+荒茶）が静岡県を抜いて全国1位になったと公表されました。従来から荒茶のみの実績（現在も静岡県に次いで第2位）が念頭にありましたので、県内茶業関係者には驚きと喜びが交錯し各方面からの問い合わせも増加しています。

なお、昨年は茶業界以外にも嬉しいニュースがありました。

まず第1に、奄美大島・徳之島及び沖縄島北部・

西表島が平成5年の屋久島に次いで、令和3年7月にユネスコの世界自然遺産に登録されました。また、平成27年には明治日本の産業革命遺産として仙巖園の旧集成館等が世界文化遺産に登録されており、鹿児島県内では3つの史跡がユネスコに認定されています。

次に、霧島神宮の本殿が、鹿児島市内の黎明館に保管されている島津家の太刀に次いで、令和3年12月に国宝に指定されています。

このように、県内には豊かな自然や名所旧跡が多数あり、また、多種多様な食材等もありますので、【GoToトラベル】再開等で観光客の増加が期待されています。

その為にも、新型コロナウイルスの早期終息が望まれます。

私たち茶業界におきましては、今年度も従来同様、県内外での販売会や共販事業の他に、春と秋に開催される「お茶まつり」への出店や小学生向け「お茶の淹れ方教室」等の各種イベントへの積極的参加、さらにネット販売にも力を注ぎ「かごしま茶」の新たなファン開拓に努め業績アップを目指します。

今年一年、茶業界に係わる皆様方のご健勝とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。



流通情勢

令和3年産実績と令和4年産の情勢

J A 県経済連 茶事業部

1 令和3年産茶の取扱概況(県茶市場)

生産面においては、3月までの気温が高く推移したことから、品種間、産地間差が小さく、短期集中が懸念されたが、4月に入ると平年を下回る気温で推移したことから、短期集中は解消され、品種間、産地間差がみられ、芽を追った生産となった。また、全国的に4月下旬に寒の戻りもみられ、一番茶が減産傾向となったことから終盤、底堅い取引展開となった。

夏茶以降についても、一番茶の価格が昨年を上回る相場展開となったことから、ここ数年厳しかった価格は回復し、全体的に安定した取引となった。

秋冬番茶においては、燃油高騰の影響もあり、減産が見込まれたが、一部でドリンク原料用やほうじ茶用の需要がみられ相場が安定したこともあり、取扱量は増加した。

県茶市場の取扱いは、数量11,955トン(前年対比113%)、平均単価940円(前年対比117%)となり、数量では、夏茶の生産量が回復したものの、栽培面積の減少や茶市場利用率の低下がみられ、市場取扱量は減少しつつあり、各茶期とも取扱量はコロナ禍以前までは回復していない。

販売面においては、令和2年度はコロナ禍により営業自粛や新茶催事等が開催できず、販売店舗での試飲販売等による対面式の販売を行うことができなかったことや、やむを得ず、一時休業せざる

を得ない状況にもなり、先行き不透明感が強かったが、令和3年度は、通信販売、ホームページや広告等コロナ禍での営業対策が講じられ、新茶売りにおいても一部回復がみられた。また、通信販売型の取引が伸びており、業界間での取引においてもリモートによる取引がみられるなど、取引形態に変化がみられた。

また、需要動向については、ゴールデンウィークや長期休暇等での移動や、イベント等の自粛がみられたこと、オリンピック、パラリンピックでの無観客開催等、海外からの渡航者の足止めが続いたことから、インバウンド需要は回復していないものの、巣ごもり需要に加え、お茶いっぱいの日やかごしま茶マルシェ等県内でのイベントは対策を講じた開催がみられ、コロナ禍以前までではないものの回復基調となっている。

これらのことにより、緑茶の販売店舗、並びに茶問屋間において、販売回復のみられる商品や令和2年産の生産量減から在庫消化がすすんだが、価格帯、商品によっては依然として在庫過多の状況がみられる。

2 生産動向

(1) 茶栽培面積

令和3年産の全国茶栽培面積は、38,000haで、前年に比べ1,100ha(3%)減少した。主に高齢化による労働力不足により廃園等が増え、傾斜地を中

令和3年産茶取扱実績表

(単位:t、円、%)

茶期	区分	令和3年産				令和2年産				前年対比			
		本茶	番茶	出物	合計	本茶	番茶	出物	合計	本茶	番茶	出物	合計
1番茶	数量	3,121	1,015	385	4,521	3,333	975	352	4,660	94	104	109	97
	平均単価	1,916	612	841	1,532	1,621	656	650	1,346	118	93	129	114
2番茶	数量	2,504	95	358	2,957	2,730	85	380	3,195	92	112	94	93
	平均単価	899	399	510	836	494	166	217	452	182	240	235	185
3番茶	数量	1,630	307	124	2,061	625	80	50	755	261	384	248	273
	平均単価	550	352	302	506	337	292	158	320	163	121	191	158
4番茶	数量	279	57	9	345	159	44	7	210	174	130	129	164
	平均単価	536	349	318	499	368	294	169	346	146	119	188	144
秋冬番茶	数量	-	2,038	48	2,086	-	1,732	37	1,769	-	118	130	118
	平均単価	-	309	108	304	-	260	87	256	-	119	124	119
合計	数量	7,534	3,512	923	11,969	6,847	2,916	826	10,588	110	120	112	113
	平均単価	1,232	403	597	940	1,025	391	392	801	120	103	152	117

※ラウンドにより合計が一致しない場合がある。

心に栽培面積の減少がすすんでいる。減少幅の一番大きい東海地区では、静岡県が700ha、三重県が70ha、東海地区全体では、前年に比べ約770ha(4%)減少している。次に減少幅の大きい地区は、九州地区であり、鹿児島県、宮崎県が各60ha、熊本県40ha、福岡県20haと九州地区全体では、前年に比べ180ha(1%)減少している。

・茶栽培面積推移 (農林水産省統計より県抜粋) (単位:ha)

県名	R3年産	R2年産	R1年産	R2差異	R1差異
埼玉	783	825	843	△42	△60
静岡	14,500	15,200	15,900	△700	△1,400
三重	2,640	2,710	2,780	△70	△140
京都	1,550	1,560	1,560	△10	△10
福岡	1,520	1,540	1,540	△20	△20
熊本	1,130	1,170	1,220	△40	△90
宮崎	1,270	1,330	1,380	△60	△110
鹿児島	8,300	8,360	8,400	△60	△100
他	6,307	6,405	6,977	△98	△670
全国	38,000	39,100	40,600	△1,100	△2,600

(2) 一番茶の荒茶生産量

主産5府県における一番茶の荒茶生産量については、本県においては大きな気象災害は見られなかったものの、全国的には4月下旬に遅霜等の影響がみられ、西日本を中心に前年に比べ、一割程度減少した。また、栽培面積の減少もあり、全体で21,100トンとなり、令和2年産に比べて△100トン減少した。

また、本県の一歩茶の荒茶生産量は、7,950トン(前年比99%、△60tの減)となった。

・一番茶の荒茶生産量推移 (農林水産省統計より主産5府県) (単位:t)

県名	R3年産	R2年産	R1年産	R2差異	R1差異
埼玉	381	440	449	△59	△68
静岡	9,680	9,420	11,000	260	△1,320
三重	1,980	2,090	2,480	△110	△500
京都	1,060	1,250	1,310	△190	△250
鹿児島	7,950	8,010	8,270	△60	△320
主産県計	21,100	21,200	23,500	△100	△2,400

3 輸出入動向

(1) 輸入量

輸入量は、コロナ禍で減少した令和2年以上に令和3年は減少傾向となっており、輸入先すべての国で前年を大きく下回っている。輸入月も、1月、3月では前年比の半分となり、多い月でも昨年並みとなっている。国内志向や国内価

格の低下等により、国内産への利用傾向にあるが、ここ数年は国内大手メーカーによる海外での生産も本格化し、オーストラリアやベトナムからの入荷量が一定量みられ、また、品質も向上している。シェアの高い中国の輸入価格は600円台前半となっている。

令和3年は10月末現在。【輸入量2,622トン(前年同期比77%、前年同期差764トン減)】

緑茶の輸入量 (財務省貿易統計より) (単位:トン)

国名	H29	H30	R1	R2	R3.10月末
中国	3,319	3,918	3,669	3,386	2,335
オーストラリア	328	277	247	207	143
ベトナム	158	343	280	215	74
その他	165	191	193	109	70
計	3,970	4,729	4,389	3,917	2,622

※各年の期間は1月~12月

(2) 輸出量

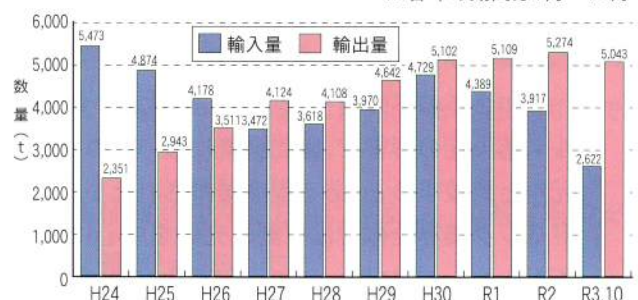
輸出量は、日本茶を中心に無糖飲料が健康に配慮されており、コロナ禍での海外の健康意識は高まり、特にアメリカでの数量が大きく伸びた。令和3年も取扱量は堅調に推移しており、10月末現在で、前年を大きく上回る取扱となっている。また、アメリカ、ドイツでは4,000円前後、台湾では1,000円前後の茶が中心に取引されている。また、アメリカでは粉末状(抹茶や粉末茶)での輸出割合が高まっており、ドイツ、台湾ではリーフ茶の割合が高い。

令和3年は10月末現在。【輸出量5,043トン(前年同期比119%、前年同期差809トン増)】

・緑茶の輸出量 (財務省貿易統計より) (単位:トン)

国名	H29	H30	R1	R2	R3.10月末
アメリカ	1,407	1,594	1,485	1,941	1,874
台湾	1,079	1,217	1,389	1,407	1,193
ドイツ	341	373	346	307	436
シンガポール	343	307	324	240	250
カナダ	189	206	162	163	159
その他	1,279	1,407	1,403	1,216	1,131
計	4,638	5,104	5,109	5,274	5,043

※各年の期間は1月~12月



・緑茶の輸出入量推移 (財務省貿易統計より)

4 緑茶の消費動向

(1) 一世帯あたり購入数量・支出金額

一世帯あたりの緑茶購入数量・支出金額については、数量・金額ともに減少傾向は続いているが令和2年は巣籠もり需要から若い世代を中心に茶を飲む頻度が増加したこともあり回復傾向となった。しかし、金額は低価格帯が主流となっており数量以上に金額の伸びはみられなかった。令和3年は、茶販売促進緊急事業による茶の消費や長きにわたるデフレ状態から一部の商品でインフレとなったことから、必需品以外の出費抑制が働き、嗜好品を中心に消費低迷となり、9月末現在、購入量561g(前年同期比90%、前年同期差59g減)、支出金額2,590円(前年同期比91%、前年同期差247円減)となっている。



※各年の期間は1月～12月

・一世帯あたり購入数量・支出金額(総務省家計調査より)

(2) 市町別一世帯当たりの緑茶購入量

市町別一世帯当たりの緑茶購入量については、全国平均を上回っているものの、購入数量は減少傾向となっており三年前の1,554gから513g減の1,041gで、全国9位の購入量となっている。

・市町別一世帯当たりの緑茶購入量(H30～R2の平均購入量)

順位	市	購入量	順位	市	購入量
1位	静岡市	2,198g	6位	堺市	1,080g
2位	浜松市	1,346g	7位	大津市	1,076g
3位	長崎市	1,222g	8位	相模原市	1,074g
4位	津市	1,137g	9位	鹿児島市	1,041g
5位	奈良市	1,103g		全国平均	805g

※総務省家計調査(品目別:都道府県庁所在地及び政令指定都市)

(3) 緑茶ドリンクの年次別生産量

令和2年のドリンク市場は、新型コロナウイルス感染症の影響で、販売環境においては、令和元年と比較すると、ある程度緩和されたものの、ドリンク業界全体では自動販売機を中心に販売不振となっており、令和元年並みの生産量となっている。

しかしながら、このような状況下においても各社、通常の緑茶飲料に加え、消費者の無糖傾向や健康志向のニーズに対応した機能性を追求した商品や、特保商品等の広がりをみせている。フレーバーを楽しむ若者やカフェインを気にする層を中心とした、ほうじ茶や、緑茶のケルセチン配糖体の働きにより、脂肪分解酵素を活性化させ、体脂肪を減らすのを助けるといった特保商品、水色を重視した商品とSDGsの取組みを合わせたラベルレスの商品、抹茶ラテやほうじ茶ラテ等の新商品も増え、販売が好調のメーカーもみられる。味覚や嗜好に対応したお茶に親しみやすい商品が今後も増加していくことが予想されるため、さらに幅広い消費者層への販売の広がりが期待される。



・緑茶ドリンクの年次別生産量(日経経済通信社調)

5 最近の動向

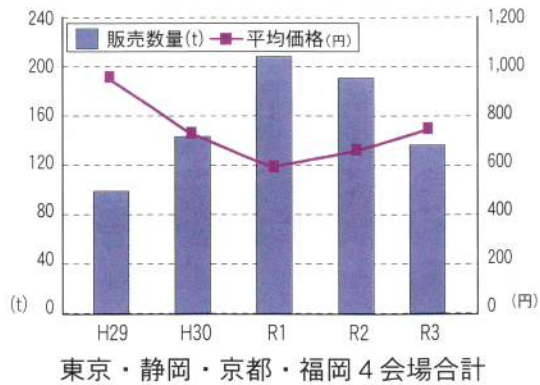
(1) 「かごしま茶」統一販売会

(令和3年11月10～12日)

令和3年度の統一販売会は、コロナ禍により、前年に続き東京会場での開催が中止となった。各産地とも自社で在庫を多く持たない販売形態が増加しており、販売会においても必要仕入れが中心となり、取引数量は、減少した昨年の7割程度となった。単価においては、それぞれ必要な茶種により価格が異なり、京都・福岡では昨年を上回る取引がなされた。全体の取引としては、数量・単価とも平成30年に類似した取引となった。

・各会場の取扱実績

場所	R3		R2		前年対比	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価
東京						
静岡	100,836	575	140,756	588	71%	97%
京都	19,477	1,252	26,989	891	72%	140%
福岡	17,521	1,152	23,116	859	75%	134%
合計	137,834	744	190,862	664	72%	112%



(2) 新春初取引会(令和4年1月6日)

- ・点数 104点 (130点) 80%
- ・数量 5.5トン (11.3トン) 49%
- ・平均 1,289円 (846円) 152%
- 高値 4,044円 (8,888円) 45%
- 安値 513円 (300円) 171%

※()内は前年実績。価格は本茶のみ。

6 令和4年産茶に求められるもの

令和3年産茶については、大きな気象災害はなかったものの、記録的な大雨による日照不足や病害虫の発生等により、芽伸びが遅く、生産量が伸び悩み、また燃油高騰の影響を受け、燃料や資材の高騰により荒茶生産において厳しい環境となった。

国内の販売面においては、緑茶の飲料形態は、消費支出額で比較すると、ペットボトル等の茶飲料での利用形態が約70%、リーフ茶での利用形態が約30%となっており、茶飲料での利用形態が増加傾向にある。それに伴い、飲料メーカーはさまざまな販売戦略をすすめ、パッケージや、水色へのこだわり、機能性表示等も多岐に渡り商品化されている。リーフ茶においては、利用形態が約30%ではあるものの、巣籠もり需要や、若い世代を中心に在宅時間の増加により、消費がある程度保たれたことや、上級茶にこだわった商品を買求める声もあり、小売店舗では一定量の上級茶の需要が毎年見込まれている。コロナ禍により在宅時間の増加が本物志向を高め、近年苦戦傾向であったリーフ茶が持つ機能に関心が持たれる良い効果を生んだものと思われ、このことは購買層の中心を占める高齢者層の利用だけではなく、ドリンク飲料の中心であった若年層の関心も寄与しているものと思われる。また、リーフティーカップといった新形態

や、EC(電子商取引)サイトや定額課金制「サブスクリプション」といった新たな販路が創出され、緑茶を購入できる手段も増加している。

国外販売については、令和3年もコロナ禍や、輸送コストの高騰により一時期は輸出も伸び悩んだが、健康意識の高まりから、海外では日本茶の需要が高まっており、特に抹茶、有機栽培茶等、海外展開が進んできている。消費者の緑茶の健康効果に対する意識の高まりなどにより、緑茶は世界中で好まれる飲料の一つとなってきた。ヨーロッパでは有機栽培茶の需要が主流となっているが、米国では、有機栽培茶以外の割合も多く、日本からの茶輸出量の約4割程を占めている。

これらを踏まえ、今後も茶買受人や消費者から求められる茶づくりを継続していく必要があり、買手のニーズに基づいた多様な原料の確保が求められている。生産においては、経営を安定させるためにさまざまな生産形態を工場内で協議する必要がある。生産形態としては、品質重視の生産、品質と量の価格バランスをみながらの生産、収量重視の生産、輸出向けや有機栽培、また、紅茶、ウーロン茶、碾茶等の特別茶を取入れた生産等、多種多様になっているため、それぞれの取組形態や、茶時期によりこれらを組み合わせた形態が必要になってくる。

また、生産コストを意識した取組みも必要となってくるため、作業従事者の高齢化と労働力不足の観点からも、圃場管理における栽培管理の効率化、労働体制の見直しを図りつつ、生産性の維持、向上を図るため、「ちゃびおんねっとシステム」をはじめとする、さまざまなシステムやAIを生産に活用する必要がある。また、「かごしま茶」の特徴を活かしつつ、工場毎にその年の生産体制を十分協議することが求められる。

輸出においては需要に対応できる生産や、本県で取組んでいる「かごしま茶輸出サプライチェーン」の取組み等を活用し、供給体制を業界団体一体となり実施する必要がある。

また、圃場管理については、継続して、最終摘採を考慮した摘採や適正な肥培管理、適期防除等、茶づくりの基本技術の順守や、安全・安心・クリーンなかごしま茶づくりの実践により、質、量ともに日本一の「かごしま茶」の生産を目指し、次世代に向けたSDGsへの対応が求められている。

〔研究最前線〕

ハロゲンランプ型水分計による 生葉、粗揉葉及び中揉葉含水率の 簡易測定法

農業開発総合センター 茶業部

1 はじめに

茶葉含水率を把握することは、加工工程において製茶機械の条件を設定するために非常に重要です。しかし、公定法（105度で16時間乾燥）では、時間を要することから製造工程へ即時に反映させることは難しい状況があります。

本県では、電子レンジ利用による生葉含水率及び製茶工程中の茶葉含水率の簡易測定法（H6年度普及情報、H8年度技術情報）やハロゲンランプ型水分計（以下、水分計）を使用した精揉葉、荒茶の低水分域の簡易測定法（H25年度普及参考情報）が報告されており、同水分計は、県内茶工場に広く普及しています。

そこで、本水分計を使用した生葉含水率及び粗揉、中揉工程の高水分域における茶葉含水率の簡易測定法を開発したので紹介します。

2 測定条件

最適な測定条件を明らかにするため、温度や時間、重量などの条件を変え検討したところ、水分計（図1、MOC63u：株式会社島津製作

所）の測定モードの1つである急速に温度を上げて乾燥するRAPID（急速乾燥モード）が高水分域の測定に適していることがわかりました。RAPIDモードでは、水分変化率によって温度が変わるため、茶葉の焦げが生じることなく生葉、粗揉葉及び中揉葉含水率を測定できます。また、下記の条件で行うことによって、測定時間は、8～13分と公定法に比べて大幅に短縮されました（表1）。



図1 ハロゲンランプ型水分計

表1 ハロゲンランプ型水分計による測定条件

	測定モード	設定温度(℃)	温度低下の条件	終了条件	測定時間(分)
生葉	RAPID(急速乾燥)	200→150	5.5%	0.05%	8~12
粗揉葉、中揉葉	RAPID(急速乾燥)	200→150	7.5%	0.05%	9~13
精揉葉	AUTO(自動停止)	135	なし	0.01%	12~15
荒茶	TIME(時間停止)	135	なし	7分	7

注)生葉から精揉の温度低下及び終了条件は、30秒間の水分変化率を表す。

3 公定法と簡易測定法で測定した 茶葉含水率の関係

茶業部の一番茶から三番茶を使用し、公定法と水分計を使用した簡易測定法で生葉含水率や粗揉、中揉工程中の茶葉含水率を測定しました。簡易測定法による茶葉含水率は、公定法で測定した含水率と高い正の相関がありました(図2、3)。

また、萎凋工程の生葉含水率は、300%後半から紅茶の製造目安である160%前後まで経時的な測定が可能でした。

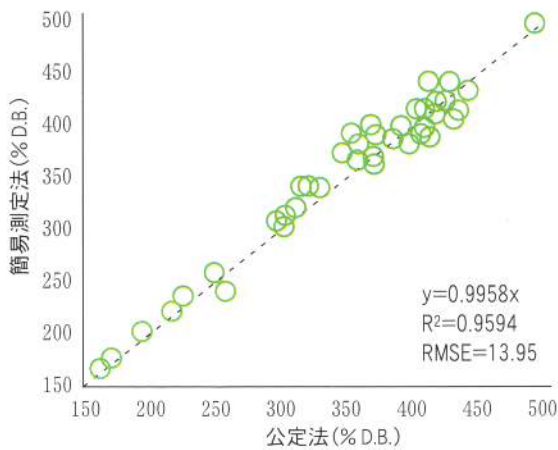


図2 公定法及び簡易測定法における
生葉含水率の関係 (n=50)

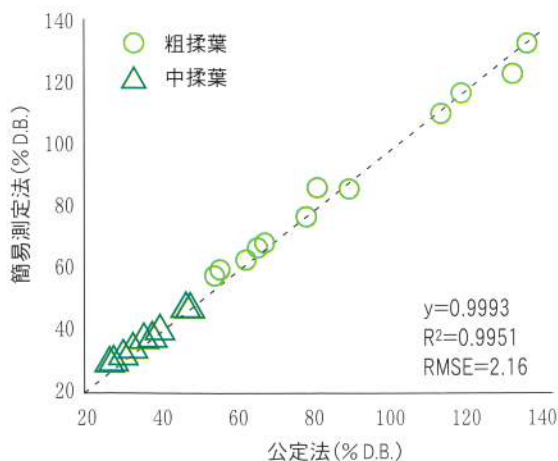


図3 公定法及び簡易測定法における
粗揉葉、中揉葉含水率の関係 (n=24)

4 測定手順

(1) 生葉の測定手順

生葉は、かさが大きく、葉と茎で水分が異なるため、測定前にカッター等を利用して約1cm

四方に切断し、大きさを均等にします(図4上)。本試験では、チョップドカッター(和平方レイズ株式会社)(図4下)を用いて生葉の切断を行います。そして、切断した生葉3~4gを水分計の測定皿に均一に設置し、表1の測定条件にて含水率を測定します。

(2) 萎凋後の生葉、粗揉葉及び中揉葉の測定手順
切断せずに3~4gを水分計に設置して生葉同様に測定します。



図4 約1cm四方に切断した生葉



チョップドカッター

5 おわりに

今回の試験で水分計を使用して生葉から荒茶までの含水率を簡易に測定することができることが判明しました。

茶葉含水率を短時間で測定できるようになったことで、茶葉の水分状況を製造条件へ即時に反映できます。また、萎凋中の生葉含水率を測定できるので重量減と併せて含水率を確認することで紅茶への製造に活用することが可能です。

本情報が県内茶工場に普及し、製茶技術の安定に繋がれば幸いです。

(加工研究室 研究員 針原 彩乃)

県茶生産協便り

「かごしまお茶マルシェ2021」

～アミュ広場で開催しました～

(一社)鹿児島県茶生産協会

2年ぶりの開催となる「かごしまお茶マルシェ2021」を、11月17日(水)・18日(木)に鹿児島中央駅アミュ広場にて開催しました。

今回は、若年層のリーフ茶離れ対策及び「かごしま茶」の新たなイメージづくりに資するため、若年層を対象とするPRイベントを開催し、若年層等への「かごしま茶」の認知度向上と消費拡大を図りました。

や大学生、ご年配の方まで幅広い方に参加していただき、5000人を超えるたくさんの方にご来場いただきました。



かごしま茶の認知度を図るため来場者に緑茶ティーバックのスレゼント

アンケートを書いていた方に かごしま茶産抹茶のパウンドケーキをスレゼント



たくさんの感想をいただきましたので、ご紹介致します。

かごしま茶の茶葉、お茶を使ったスイーツやドリンク、陶器などが販売され、他にもお茶を使った料理コンテストやお茶の入れ方の投票、お茶でアウトドアスタイルなど、お茶をもっと楽しめるようなイベントがありました。

平日開催でしたが、親子連れの家族や、高校生

- お茶が大好きなので、このようなイベントがもっとあったらいいなと思いました。楽しいです!
- 遠くて買えないお店があり嬉しい
- お茶農家の方々頑張って下さい! 鹿児島のお茶美味しいです!
- また、色々な農家さん達と直接お話できるイベン

トがあれば嬉しいです

- 新しいお茶、若い感じのお茶の発見があつて良かった。普段から鹿児島茶を飲むお店やスペースが、コーヒーショップのように鹿児島でどんどん増えてほしいです
- 美味しいから、全国の人に鹿児島茶を知ってほしい。
- 色々なお茶を知る事ができたとし、なにより試飲ができたのが良かったです。また参加したいです。など、イベントだけでなく、お茶に対しての嬉しい感想を沢山いただきました。ありがとうございました

ました。

「かごしまお茶マルシェ2021」は、県内各地からトレンド店とお茶生産農家がアミュ広場に集結し、また多くの方々に楽しんでいただけたイベントとなりました。



鹿児島県茶業青年の会「茶品質向上共進会審査会」の結果

県茶業青年の会では、令和3年度鹿児島県茶業青年の会「茶品質向上共進会審査会」を11月15日に鹿児島県茶業流通センターで開催しました。

県下各地の茶業青年から100点が出品され、県農業開発総合センター茶業部長を審査長に、同センター研究員、県下各産地の茶業技術員の審査員により、厳正に審査されました。

【個人の部】

特別賞	受賞者	地区名
鹿児島県知事賞	宮脇 一成	宮之城
九州農政局長賞	永山 和博	穎 娃
県茶業会議所会頭賞	福元 良輔	枕 崎
県経済連会長賞	山口 涼太	末 吉
県茶生産協会会長賞	池田 司	有 明
県茶商業協同組合理事長賞	塗木桂一郎	知 覧

【団体の部】

	地区名
1 位	枕 崎
2 位	知 覧
3 位	穎 娃



一般社団法人鹿児島県茶生産協会

「お知らせ旗」について

鹿児島県茶生産協会では、「安全・安心で、信頼される産地づくり」を目指し、令和2年産の一番茶から「お知らせ旗」の導入・設置に取り組みます。

一般社団法人鹿児島県茶生産協会

収穫直前 お知らせ旗

黄色の旗が目印です!!

黄色の「お知らせ旗」を、収穫10日前から収穫が終わるまで茶園に設置し、「収穫直前」であることをお知らせします。

氏名
連絡先

アメリカお茶市場トレンド便り



在米コンサルタント

ロサンゼルスを拠点に活動しておりますナチュラル・プロダクツ業界専門のコンサルタントKentreeの溝呂木（みぞろぎ）です。現在ロサンゼルスを拠点に活動、情報発信をしています。

新しい年となりましたので今回は今年の食品業界のトレンド、今後の抹茶市場の予測の記事をお届けします。需要が増えてきているほうじ茶パウダーについての記事もご覧ください。

それではアメリカ市場のそれぞれの記事の紹介となります。

抹茶市場の収益予想

2027年までに55億ドルに

アーロン・キール著 2021年9月24日



Global Market Insights Inc. の新しい調査報告書によると、健康的で安全な製品や、多様なフレーバー茶の需要が高まったことを背景に、抹茶の市場

価値は2027年までに55億ドルを超えると予想されている。

また、抹茶業界の蒸気生産技術による全体の規模は、2027年までに20億米ドルを上回る見込みである。蒸気生産技術の利用により、茶葉を機械で蒸した後、通風乾燥させることで、若い茶葉の品質を保ちつつ、鮮やかな緑色とすがすがしい甘みのある風味を得ることができる。さらに茶を低コストで生産できるため、利用が増加しているという。

蒸気生産の採用を後押しし、同様に抹茶業界を盛り上げている背景には、世界的に高品質な茶への需要が高まっていることがあげられる。



クラシックグレードの抹茶は飲用やドリンク用原料に使用されるため、需要の増加が期待でき、世界市場規模は2027年までに25億ドルを超えると予想される。

これらの抹茶には栄養素や抗酸化物質、特に強力



で栄養価の高いカテキンであるEGCgが含有される他、体を刺激するカフェインや、リラックス効果のあるアミノ酸といった成分が豊富に含まれており、仕事や遊び、瞑想に必要な穏やかで安定したエネルギーを生み出しだす作用がある。

新しい抹茶市場レポートの主な調査結果：

- 釜炒り生産技術による抹茶産業は、その特性と香味で飲料の味を引き立てることから、2027年には30億ドルを超える予想。
- 食品加工用途では、主に焼き菓子、飲料、その他のパック食品に抹茶パウダーを利用し、2020年に3億6000万ドルを上回った。
- 通常の飲用抹茶は、濃縮された抗酸化物質の効果により、2027年には30億ドルを上回る可能性がある。
- ラテンアメリカでは、主に飲用抹茶と抹茶入り飲料用の製品に対する需要が高い。
- 抹茶市場は競争が激しく多数のメーカーが参入している。

注目点：パーソナルケア・化粧品用途の抹茶市場は、2027年に10億ドルを上回る見込みである。抹茶には、シミを薄くしたり、肌のトーンを均一にする、有害な紫外線の影響を軽減、肌にハリを与える、肌の老化やくすみを防いだりするといった効果があり、パーソナルケア・化粧品用途の世界市場では需要が高まると予想される。

欧州の抹茶市場の概要

欧州の抹茶市場は、健康志向の高まりにより、2021年から2027年にかけて7%以上の年平均成長率を記録する見込みである。健康に配慮した製品への需要の増加と、飲料のイノベーションが市場拡大の背景にある。抹茶には、抗酸化物質、ビタミン、ミネラルなどの栄養成分が含まれている。様々な健

康上の問題が増加している欧州では、栄養価の高い食品や飲料の人気の高まっていることも市場の成長に拍車をかける要因となっている。



原題：New Report:matcha market Revenue to Hit \$5. 5Billion by 2027 (抜粋)

株式会社ほうじ茶：米国市場における「ほうじ茶パウダー」の販売拡大を目指す

アーロン・キール著 2021年10月21日



Hojicha Trading Co.Ltd. (ほうじ茶トレーディング株式会社) は、米国市場でのほうじ茶パウダーの販売を目的としたオンラインショップ「Hojicha Powder.com」を開設した。



このオンラインショップでは、オリジナルのほうじ茶パウダーのみを取り扱っている。また流通・発送は米国の両岸にあるセンターで行うなど、利便性を重視している。

茶葉や日本製の茶器を扱う本店とオンラインショップは直接競合することになるのだが、同社は2021年末までに海外でトップのほうじ茶専門店を運営することを目標としている。

同社によると、米国では日本の本物の商品、すなわち焙煎したてのほうじ茶パウダーの需要が高まっているため、ほうじ茶社は在庫回転率を落とすことなく、倉庫の数を増やすことができたという。

共同設立者であるダニエル・ゲバは、「拠点を拡大することを決めたとき、商品の鮮度や品質に妥協しないことを明確にしました。農場から家庭に届くまでの工程において、アメリカのどこでも同じ早さで提供できるようになったことを嬉しく思います」と述べる。

また、このオンラインストアは、家庭の消費者だけでなく、ほうじ茶の取り扱いを希望するカフェや小売店も利用できる。事業者は、卸売り取り扱いの登録が不要で、消費者と同様に手軽に、かつスピーディーなサービスを受けることができる。



原題 :Hojicha Co.Alms to Increase Sales of Hojicha Powder in U.S. Market (抜粋)

「ホールフーズ2022年の食品トレンド予測」 茶業界にインスピレーション

アーロン・キール著 2021年11月4日

ホールフーズ・マーケットは「2022年の食品ト



「2022年の食品トレンド予測」を発表した。このトレンドは、毎年、世界のバイヤー、料理の専門家ら50人以上のホールフーズ・マーケットのチームメンバーで構成されるTrends Councilが、数十年にわたる商品調達の経験と専門知識、消費者の嗜好の調査、さらには新興および既存のブランドとの綿密なワークショップをもとにまとめたもので、今年で7年目となる。



ホールフーズ・マーケットが発表した2022年のフードトレンド予測トップ10のうち、茶業界の興味を惹きそうなものをいくつかあげてみよう。



Yuzu: ゆず

米国ではまだあまり知られていないが、日本、韓国、中国などで栽培されている柑橘のゆずは、現在、料理界を席巻している。



酸味と香りのある果実は、ピネグレッドソース、ハードセルツァー、マヨネーズなどに使用され、レストランでは、シェフたちがライムやレモン、グレープフルーツのように、スープや野菜、麺類、魚などのアクセントとしてゆずを使用している。

Hibiscus: ハイビスカス

ビタミンCを多く含むハイビスカスは茶の世界では古くから親しまれてきた。現在はその甘酸っぱい風味を活かして、ジャムやヨーグルトに利用される他、ハイビスカスの特徴である鮮やかなピンクの色を活かした飲み物にも使用されている。

**Buzz-Less Sprits: アルコールフリーのスピリッツ**

アルコール度を下げたスピリッツの売り上げが、今年、記録的な成長を遂げた。ミレニアル世代やZ世代がコロナ禍で外での飲酒を控えていたこともあり、ノンアルコール嗜好が続くと見込む。ホールフーズでは、モクテルのようなオシャレで、かつカクテルのような風味のある新しいドリンクのラインナップを用意している。

Moringa: モリンガ

「奇跡の木」とも呼ばれるモリンガは、インドやアフリカなどで伝統的に漢方薬として使われてきた。モリンガは成長が早く乾燥にも強い木で、葉には豊富な栄養素が含まれているため、世界各地で栄養失調対策のために利用されてきた。米国



では、抹茶の代替品として注目されており、粉末状のモリンガは、スムージーやソース、焼き菓子、また、冷凍のデザートやプロテインバー、パック入りの穀物ブレンドなど、意外な製品にも使用されている。

Functional Fizz: 機能的な炭酸飲料

今日では炭酸飲料は味が良いだけでなく、甘さのバランスがとれる成分を含むものが求められている。



プロバイオティクスを配合したソーダや、プレバイオティクスやボタニカル天然成分を加えたトニックなどが登場している。

Turmeric: ターメリック (ウコン)

「黄金のスパイス」と呼ばれるターメリック (ウコン) は、何世紀にもわたってアールヴューダや中国伝統医学で使用されてきたが、米国では健康サプリやハーブティーとして注目されている。ゴールデンミルクラテやターメリックのサプリメントは目新しくはないが、シリアルやザワークラウト、さらには植物性のアイスクリームサンドイッチなどのパック食品の材料としても使用されている。

ホールフーズでは、2022年のその他のトレンドとして、ウルトラ・アーバン・ファーミング (超都会型農業)、リデュースタリアニズム (減量主義)、農地にやさしい穀物、ヒマワリの種などを挙げている。

ホールフーズ・マーケットでは、これらのトレンドを代表する10の製品を厳選して詰め合わせた「トレンド・ディスカバリー・ボックス」を10月18日から期間限定で販売している。一箱30ドル (50ドル以上相当) で一度にすべてのトレンドを味わうことができる商品になっている。

原題: Whole Foods' Trends for 2022 Offer
Inspiration for the Tea Industry (抜粋)

(詳しくはブログにて)

<http://kagoshimacha.blogspot.com>

第75回（令和3年度） 全国茶品評会結果概要

「第75回全国茶品評会」が、令和3年11月16日～19日の4日間にわたり、静岡県静岡市の株式会社静岡茶市場で開催されました。

本年は、18都府県の茶産地から7茶種8部門に830点が出品され、全国から集まった20名の審査員により慎重に審査されました。

本県からも6茶種7部門に128点が出品され、普通煎茶10kgの部において、南九州市が産地賞第1位を受賞し、霧島市が第2位に入りました。この部で本県は18年連続で第1位を受賞、個人部門では、霧島市の株式会社有村製茶 有村幸二氏が、

農林水産大臣賞を受賞しました。

この部門は、摘採条件が機械摘みに限定されており、審査概評では、外観、内質ともに優れた品質で、作業精度の高さを感じたとの報告がありました。

また、玉露の部で曾於市が産地賞第3位を受賞したほか、普通煎茶4kgの部、釜炒り茶の部、玉露の部において多数入賞し、本県が多様な茶種が「高いレベルで」生産されることを示すことができました。

褒賞授与式は、11月28日に埼玉県川越市のウェスタ川越で開催されました。

特別賞 普通煎茶10kgの部

特別賞	受賞者	市町名
農林水産大臣賞	(株)有村製茶 有村幸二	霧島市
農林水産省農産局長賞	知覧銘茶研究会 宮原光製茶 宮原 健	南九州市
全国茶商工業協同組合連合会理事長賞	有限会社 マルマサ製茶	南九州市

産地賞

普通煎茶10kgの部	1位：南九州市 2位：霧島市
玉露の部	3位：曾於市

【褒賞授与式（普通煎茶10kgの部）】



農林水産大臣賞
(株)有村製茶 有村 幸二氏



産地賞 南九州市